

堂々と暮らせる世の中に

高一

私の、将来の夢はリハビリ系の職業に就くことです。

一つ目の理由は、私自身が幼稚園のときから中学二年生まで言語のリハビリをしていたからです。私が小学生のときに、一つ上の男の子から、「何を言っているのか分からない。」などと言われ悔しい思いをしたことがあります。私の他にもそういう悔しい思いをした人がいると思うので、少しでも多くの手助けをしていきたいと思いました。

二つ目の理由は、足や目などが不自由な人は、普通に歩いたり、周りの景色を見ることにあこがれたりするのではないかと思うからです。私は、スムーズな会話や、聞き返さなくても通じている人たちを、ともうらやましく思うと同時にあこがれました。

私の場合は言語で、すぐに治りましたが、昔は、私が大きくなっつきり話しても一回できちんと言わることがなく、「なんで、みんなのは伝わるのに、

私だけ伝わらないの。」と何度も思い、何度もあきらめました。しかし、たった一回の手術と何年かのリハビリをしたおかげで、何度もあきらめていたことが私自身でできるようになり、とても嬉しかったのです。だから、この喜びを悔しかったり、悲しい思いをしたり、当たり前のことを何度もあきらめてしまっている多くの人たちにできる限り伝えていきたいと思いました。

私は、小さい頃に、本当にたくさんを経験をしたと思っています。入院をして、手術やリハビリもしました。入院をしていた頃に会った子たちは、産まれて間もない子供から中学一年生くらいまでの年齢の子供たちしかいませんでした。なぜ入院しているのか分からないくらい毎日遊び、とても楽しかったです。

しかし、たとえ病院内で楽しく元気に生活していても、世の中に出ると、身体に障害のある人は、一部の人から差別を受けたり、心ない言葉をかけられたりすることもあります。私は、差別をする人や、心ない言葉をかける人がいなくなり、障害者とよばれている人たちが、悲しまず、世の中で堂々と暮らしていけるようになってほしいです。